

平成22年度病害虫発生予報第1号の発表について

向こう1か月の主要な病害虫の発生予察情報については、次のとおりです。

- ・ 水稲では、種子伝染性病害の発生を防ぐため、塩水選や種子消毒を的確に実施してください。また、田植え後、本田に放置された補植用取置き苗はいもち病の伝染源となるので、早期の除去を徹底してください。
- ・ 施設栽培野菜では、トマトの灰色かび病、きゅうりの褐斑病及び灰色かび病、いちごのうどんこ病及び灰色かび病並びにハダニ類の発生が多くなっています。
- ・ 果樹・茶では、茶のカンザワハダニの発生が多くなっています。

病害虫防除に関する留意点

- ・ 病害虫防除を効果的に実施するためには、病害虫の発生状況を的確に把握し、適期の防除につなげることが大切です。病害虫の発生は天候の影響を大きく受けるので、天候の状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報に基づき、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- ・ なお、薬剤防除を実施する場合には、適切な薬剤を選択するとともに、病害虫が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。また、農薬の使用基準を遵守し、薬剤散布の時期に留意するとともに、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。

水稲

- ・ 育苗期にいもち病、ばか苗病などの種子伝染性病害の発生を防ぐため、これらの種子伝染性病害が発生した、又は病害に汚染されている可能性のあるほ場から採種した種子の使用は避けるとともに、塩水選や種子消毒を的確に実施してください。
- ・ また、田植え後、本田に放置された補植用取置き苗はいもち病の伝染源となるので、早期の除去を徹底してください。

麦

- ・ **赤かび病**の発生は、「平年並」と予想されます。

本病の防除は適期を逃さず行うことが重要であり、麦の種類に応じて、必ず以下の時期に最初の防除を行う必要があります。防除適期に降雨が続く場合であっても、短い晴れ間を利用するなどして、確実に防除を実施してください。

また、病害虫防除所からの情報や、栽培品種の赤かび病抵抗性を考慮して、必要に応じて追加の防除を実施してください。

麦の種類	最初の防除を行う生育時期
小麦	開花を始めた時期から開花期まで
二条大麦	穂揃い期の10日後頃
六条大麦	開花を始めた時期から開花期まで

野菜・花き

露地栽培

- ・ 気温の上昇に伴い病害虫の動きも活発になるので、ほ場観察を行い病害虫の早期発見に努め、発生を認めた場合は適期に薬剤防除を実施してください。

たまねぎ

- ・ **べと病**の発生は、近畿、中国、北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病は、気温が15℃前後で降雨が続くと発生が助長されます。ほ場観察を行い発生を認めた場合は、被害株の除去を行うとともに早期に薬剤防除を実施してください。

(発生が多い・やや多いと予想される病害虫及び地域)

作物名／病害虫名	発生が「多い」地域	発生が「やや多い」地域
キャベツ		
コナガ	—	近畿
たまねぎ		
白色疫病	—	近畿、中国、四国
べと病	—	近畿、中国、北九州

施設栽培

- ・ 春先の気温上昇に伴い、栽培管理上施設を開放する機会が増えるので、病害虫の施設への侵入及び野外への飛び出しに注意が必要です。
- ・ 施設内が過湿になると病害の発生が助長されるので、施設周辺に排水路を整備して雨水が施設内に入らないように留意し、作物の株間の通風を図る等、過湿にならないように施設を管理してください。

- ・ ウイルス病を媒介するアザミウマ類、コナジラミ類等の侵入及び野外への飛び出しを防止するため、施設の開口部に防虫ネット等を設置するなどの対策を実施してください。
- ・ また、栽培終了後は蒸し込み処理等を行い、作物残渣での生存虫を死滅させてから搬出し、確実に処分してください。

トマト

- ・ **灰色かび病**の発生は、関東、東海、四国及び九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病は、施設内が過湿になると発生が助長されるので、作物の株間の通風を図る等、過湿にならないよう施設を管理してください。また、本病の早期発見に努め、適期に薬剤防除を実施してください。

きゅうり

- ・ **褐斑病**の発生は、四国の一部地域で「多い」、九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、関東の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病は、施設内が過湿及び窒素過多となると発生が助長されるので、株間の通風を図る等、過湿、窒素過多にならないよう施設を管理してください。また、多発すると防除が困難なので、施設内の観察により発病を認めた場合は、早期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **灰色かび病**の発生は、四国及び南九州の一部地域で「多い」、関東及び東海の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病は、施設内が過湿になると発生が助長されるので、作物の株間の通風を図る等、過湿にならないよう施設を管理してください。また、本病の早期発見に努め、適期に薬剤防除を実施してください。

いちご

- ・ **うどんこ病**の発生は、南関東及び九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、東海及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病は、多発すると防除が困難なので、施設内の観察により発病を認めた場合は、発病葉や発病果の除去を行うとともに、早期に薬剤防除を実施してください。また、葉が混み合うと多発しやすくなるので、枯葉や下葉等の不要な葉を除去するなど適切な栽培管理を実施してください。

- ・ **灰色かび病**の発生は、東海及び九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、関東、近畿及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病は、施設内が過湿となると発生が助長されるので、枯葉や下葉等の不要な葉を除去するなどして株間の通風を図る等、過湿にならないよう施設を管理してください。また、本病の早期発見に努め、発病葉や発病果の除去を行うとともに、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **ハダニ類**の発生は、関東の一部地域で「多い」又は「やや多い」、東海、近畿及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本害虫は、発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、発生初期での薬剤防除を実施してください。

(発生が多い・やや多いと予想される病虫害及び地域)

作物名／病害虫名	発生が「多い」地域	発生が「やや多い」地域
トマト		
疫病	東海、四国、南九州	南関東
灰色かび病	北関東、東海、四国、九州	南関東、近畿
葉かび病	—	南関東、東海
コナジラミ類	北九州	関東、北陸
なす		
うどんこ病	—	東海
すすかび病	—	四国
灰色かび病	東海	南九州
アザミウマ類	東海、北九州	—
コナジラミ類	四国	北九州
ピーマン		
アザミウマ類	—	北関東
アブラムシ類	四国	—
コナジラミ類	四国	—
きゅうり		
うどんこ病	四国	北関東
褐斑病	四国、北九州	関東、南九州
灰色かび病	四国、南九州	北関東、東海
べと病	東海、四国	南九州
アザミウマ類	北関東、北九州	—
コナジラミ類	南九州	北九州
ハダニ類	—	北関東
いちご		
うどんこ病	南関東、北九州	南東北、東海、四国、南九州
灰色かび病	東海、九州	関東、近畿、四国
アザミウマ類	南関東	東海
アブラムシ類	南関東	北関東、四国、南九州
コナジラミ類	南九州	—
ハダニ類	関東	東海、近畿、四国

きく		
白さび病	南九州	北関東
アザミウマ類	北九州	—
ハダニ類	北関東、南九州	北九州

果樹・茶

- ・ 病害対策として、カンキツかいよう病やカンキツそうか病などの常緑果樹（かんきつ）の病害は、越冬病斑が一次伝染源となります。また、昨年、発生が多かったなし黒星病、ぶどうべと病などの落葉果樹の病害は、罹病落葉や罹病枝が一次伝染源となります。
- ・ 一次伝染源となる罹病落葉や罹病枝葉の除去や枝幹病患部の削り取りを徹底するとともに、早期防除による初期感染防止を行い、適切な管理を実施してください。
- ・ 害虫対策として、園内の観察をきめ細かく行い、害虫の早期発見に努め、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ 凍霜害を受けた茶園では、カンザワハダニの発生に特に留意し、適切な管理を実施してください。

果樹共通

- ・ **果樹カメムシ類**の越冬量は、近畿の一部地域で「多い」状況であり、発生は、東海、近畿及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は、園周辺の山林から飛来してくるので、例年、カメムシ類の被害が多い園地や山林に隣接した園地では、園内の観察をきめ細かく行ってください。また、飛来が認められた場合は、飛来初期からの防除を実施してください。

かんきつ

- ・ **ミカンハダニ**の発生は、四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本害虫は、気温が高く雨が少ない場合に発生が多くなります。園内の観察をきめ細かく行い、発生初期からの薬剤防除を実施してください。

りんご

- ・ **腐らん病**の発生は、甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。
園内の観察をきめ細かく行い、罹病枝の除去、病斑部の削り取りと薬剤塗布を適切に実施してください。

なし

- ・ **黒星病**の発生は、南東北、南関東及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
開花前及び落花期における薬剤防除を確実に実施し、発病葉、発病果及び発病した新梢の除去に努めてください。

もも

- ・ **モモハモグリガ**の発生は、甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。産卵後から若齢幼虫期をとらえた薬剤防除を実施してください。

茶

- ・ **カンザワハダニ**の発生は、東海の一部地域で「多い」、南関東の一部地域で「多い」又は「やや多い」、近畿及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
特に凍霜害を受けた茶園では、本害虫の多発が予想されます。
薬剤防除を実施する必要がある場合は、農薬の使用基準を遵守し、適切な防除を実施してください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

平成 22 年 2 月 18 日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は下記のとおりです。

警報

発表なし。

注意報

発表月日	都道府県名	作物名	病害虫名
3月1日	大分県	トマト	灰色かび病
3月1日	静岡県	茶	カンザワハダニ
3月5日	愛知県	なす、きゅうり、いちご	灰色かび病
3月5日	佐賀県	たまねぎ	べと病
3月11日	鹿児島県	じゃがいも	疫病
3月12日	長崎県	施設野菜（果菜類）	灰色かび病
3月15日	岐阜県	施設野菜	灰色かび病
3月16日	鳥取県	大麦	うどんこ病、網斑病
3月18日	兵庫県	たまねぎ	べと病
4月5日	島根県	たまねぎ	べと病
4月9日	長崎県	ばれいしょ	疫病
4月14日	大阪府	たまねぎ	白色疫病
4月14日	鳥取県	ねぎ	べと病
4月15日	和歌山県	水稲	イネ縞葉枯病

4月15日	長崎県	なし	黒星病
4月16日	愛知県	うめ、もも	チャバネアオカメムシ
4月19日	愛媛県	うめ、もも、びわ、キウイフルーツ、なし	チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ
4月19日	大分県	麦類	赤かび病
4月21日	北海道	水稲	いもち病

特殊報

発表日	都道府県名	作物名	病害虫名
2月19日	群馬県	ほうれんそう	ハコベハナバエ
3月4日	宮崎県	にら	ニラえそ条斑病
3月4日	宮崎県	ショウガ	ショウガ青枯病
3月18日	大分県	茶	ミカントゲコナジラミ
3月31日	埼玉県	ブロッコリー	菌核病

用語解説

地域

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北東北：青森県、岩手県、秋田県
南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北関東：茨城県、栃木県、群馬県
南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

発生量（程度）

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側 10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として 40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側 10%の度数の入る幅

（平年値は過去 10 年間の平均）

平成 22 年度病害虫発生予報の発表予定

- 第 1 号：4 月 22 日（木曜日）
- 第 2 号：5 月 20 日（木曜日）
- 第 3 号：6 月 17 日（木曜日）
- 第 4 号：7 月 8 日（木曜日）
- 第 5 号：7 月 22 日（木曜日）
- 第 6 号：8 月 12 日（木曜日）
- 第 7 号：9 月 10 日（木曜日）
- 第 8 号：10 月 7 日（木曜日）
- 第 9 号：11 月 11 日（木曜日）
- 第 10 号：2 月 17 日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班・黒谷、金武

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>